

○台風14号情報他（9月12日12時現在）

今年の台風は、7月3日に第1号が発生して以来、ハイペースで発生が続いています。現在も14号がルソン島の東海上にあります。他にもインドシナ半島の南東海上に熱帯性低気圧B（今後台風15号となる見込み）、さらに14号の後ろにも熱帯性低気圧C（今後台風16号となる見込み）があります。

例年、この時期は大型台風が襲来することが多く、警戒が必要になります。そのため、今回は気象庁の予想を基本として、米軍台風センターとヨーロッパ中期予報センターの予想を参考にした台風情報を提供します。

1 現在の台風発生状況

- (1) 台風14号：フィリピンの東（北緯18度、東経130度）にあり、発達しながら西よりに毎時25kmで進んでいます。最盛期には915hPa、最大風速55mと猛烈な台風になると予想されています。
- (2) 熱帯性低気圧B：現在インドシナ半島の南東海上（北緯13度、東経112度）にあり、まもなく台風15号となる見込みです。この台風はすぐに上陸し消滅すると予想されています。
- (3) 熱帯性低気圧C：14号の南東海上（北緯13度、東経143度）にあり、まもなく台風16号となる見込みで、14号を追いかける予想進路となっています。

2 台風の予想進路と天気

日本に影響を与える可能性がある台風14号と今後台風16号となる見込みの熱帯性低気圧Cについて解説します。

(1) 台風14号について

予想通り、非常に強い台風となっており、台湾の南東海上で915hPa、最大風速55mまで発達する予想になっています。3つの機関の予想進路が揃ってきていますので、今後台湾の南部から中国大陸東岸に向かい、その後、東シナ海から日本に向かう予想ですが、その頃には勢力が弱まり、熱帯性低気圧か低気圧となる見込みです。

これは、太平洋高気圧（サブハイ）が、例年の定位置から西に張り出し、日本の南海上を覆っているため、日本付近には近づけない状態になっているためです。

(2) 熱帯性低気圧C (今後台風16号となる見込み)

発生場所が14号と同じような海域で、まもなく16号になる見込みです。今後、発達しながら西ないし北西方向に向かい、14号の後を追う形の予想進路となっています。勢力はまだ不明ですが、非常に強いレベルまで発達する可能性があります。

16号が北西方向に進むとともに、サブハイが東へ徐々に後退するため、東シナ海に北上するコースが開けてくる形になります。気象庁はまだ予想を出していませんが、他の2つの機関は、沖縄本島の西側から東シナ海に入り、九州方面に向かう予想になってきています。

まだまだ予想精度が低いため、どのコースを辿るか分かりませんが、今後の動向に注意する必要があります。

3 宮崎県への影響について

まだ、進路がはっきりしていませんが、現在の予想されるコースでの影響を解説します。

(1) 14号の影響

現在の予想進路であれば、本県への影響は小さいと予想されますが、秋雨前線を刺激するため、大雨となる可能性があります。

また、台湾の東海上を北上する予想が出てきた場合は、過去の枕崎台風に似たコースになってきますので、警戒する必要があります。

(2) 熱帯性低気圧C (今後台風16号となる見込み)

予想進路は、宮崎県にとって非常に危険なコースとなる可能性があります。仮に平成5年の台風13号(風台風)と似たコースとなった場合、暴風、大雨に最大級の警戒が必要となります。

* 必要に応じて、随時情報を出しますので、最新の気象情報を入手して早めの対応をお願いします。

総合農業試験場企画情報室 村岡精二 (気象予報士)